

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

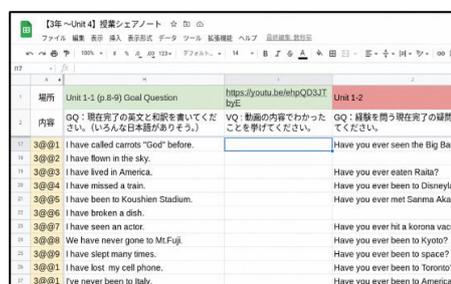
学校名	岡山県立津山中学校	実践者名	井尾 佳弘
教科等	英語	学年	第3学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	英語の基礎知識の定着と表現力の育成を図る。		
単元・内容等	英語の授業では、端末を毎回使うことによって、基礎知識の定着と表現力の育成を目指している。端末の使用時間帯を授業の最初と最後に設定することで、端末の起動や終了にかかる時間を少なくし、効率化を図っている。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	多くの教科で端末(Chromebook)を活用しており、各種アプリをスムーズに使用することができる。		

活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する

(1) 授業の最初の5分間で、単語や例文のトレーニングと確認テストを行う日を交互に設けている。スプレッドシートに単語と例文を打ち込むと、正しい場合に「○」が表示される。音声リンクも入れており、クリックすると各自で発音を確認できる。



(2) 授業の最後の活動で、授業のめあて(Goal)が達成できているかを確認する「授業シェアノート」の取組を行っている。スプレッドシートを共有し、「Goal Question」に対する自分の答えを入力する。他の生徒が書いた英文を共有しながら書くことができるので、答えを思い浮かべない場合でも、友達のをいくつか見て手がかりを得ることができる。教師は入力される英文を解説しながら、クラス全体で共有する。



実践者の手ごたえ

本実践で端末を活用した際の利点は次のようにあげられる。

- 1 個々のペースでの英語トレーニングができる。(個別最適化)
- 2 スプレッドシートの小テストは紙の準備が不要で、自動採点ができる。
- 3 めあての表現が身に付いたか、共有スプレッドシート上で英作文をして、楽しく確認することができる。
- 4 タイピング等のICTスキルの向上が図られる。
- 5 音声教材や辞書等の活用が促進される。

児童生徒の振り返りや反応等

生徒に対して行ったアンケート「端末を使った英語学習の方法で、役に立つと思うものをすべて選択してください。」の結果は、次のとおりであった。特に、タイピングトレーニングとテストについては、生徒の学習にも大いに役に立っていることがわかる。

単語集のタイピングトレーニング	75.4%
単語集のタイピングテスト	69.2%
スプレッドシートで友達と英作文を共有できること(授業シェアノートなど)	52.3%
スプレッドシートでその日の授業で習う英文法を使った英文を作ること(授業シェアノート)	43.8%